

平成30年度事業報告書

自 平成30年4月1日

至 平成31年3月31日

学校法人多摩美術大学

東京都世田谷区上野毛3-15-34

目 次

I. 学校法人の概要

1. 建学の理念・精神	2 頁
2. 沿革	2 頁
3. 設置学校等	4 頁
4. 目的・教育目標	4 頁
5. 入学定員・収容定員・学生数・定員充足率	6 頁
6. 学部学科・専攻別進路状況	7 頁
7. 役員に関する情報	8 頁
8. 教職員に関する情報	8 頁
9. 学習環境に関する情報	9 頁

II. 事業の概要

1. 中長期的な基本計画	10 頁
2. 2018（平成 30）年度 事業計画と達成状況	10 頁
3. 各部署の取組み	16 頁

III. 2018（平成 30）年度 予算執行状況及び財務状況

1. 資金収支計算	24 頁
2. 事業活動収支計算	25 頁
3. 貸借対照表	26 頁
4. 財務比率	27 頁
5. 財産目録	28 頁

I. 学校法人の概要

1. 建学の理念・精神

本学の淵源は、1929年（昭和4）年開設の帝国美術学校にある。帝国美術学校を専門学校に昇格させるため手狭な吉祥寺から広大な世田谷区上野毛に拘置移転を計画。移転派と残留派で分裂のやむなきに至るが、北吟吉校長をはじめとする大半の教師と図案化を中心とする学生らが移転し、1935（昭和10）年の前身校である多摩帝国美術学校が生まれる。その設立趣意書において、「美術は自由なる精神の所産たるを想ふとき、我が美術教育界の缺陷は力説に償するものといふべし。我等同志がこゝに我が美術教育界の缺陷を補填し、我が國美術の振興に寄與せんとする微意に出づ」と壮大な決意を謳いあげている。

美術・デザインの領域における専門教育が官立学校に頼る中、それに匹敵する私立学校を設立し、美術・デザイン領域における専門教育の充実を図ろうとの理念の下に本学は設立された。以来、今日に至るまで美術・デザイン領域における専門職業人、独立した作家の育成を理念としている。

2. 沿革

- | | |
|-------------|---|
| 1929(昭和4)年 | 帝国美術学校創立(校長：北吟吉、校主：木下成太郎) |
| 1935(昭和10)年 | 多摩帝国美術学校を5年制の美術学校(日本画科、西洋画科、図案科、彫刻科)として現在の東京都世田谷区上野毛の地に創設 |
| 1937(昭和12)年 | 財団法人設立。女子部が創立され、女子の入学が許可 |
| 1947(昭和22)年 | 専門学校令により、多摩造形芸術専門学校となり、中等教員無試験検定の指定校となる。 |
| 1950(昭和25)年 | 旧制の多摩造形芸術専門学校に3年制の短期大学、多摩美術短期大学(絵画科、彫刻科、造形図案科)を併設 |
| 1951(昭和26)年 | 学校法人に組織変更 |
| 1953(昭和28)年 | 学制改革にともない、4年制の新制大学多摩美術大学を開学(美術学部・絵画科、彫刻科、図案科) |
| 1954(昭和29)年 | 川崎市溝の口校地に多摩芸術学園(2年制 映画科、演技科)を設置 |
| 1955(昭和30)年 | 多摩美術短期大学を廃止 |
| 1964(昭和39)年 | 大学院美術研究科修士課程を設置 |
| 1969(昭和44)年 | 芸術学科、建築科の2科増設の認可 |
| 1971(昭和46)年 | 年次計画により八王子移転を開始。建築科開講 |
| 1974(昭和49)年 | 美術学部の八王子移転完了 |
| 1981(昭和56)年 | 芸術学科を開講し、美術学部は5科となる。 |
| 1982(昭和57)年 | 多摩美術大学附属美術参考資料館が、博物館相当施設の指定を受け一般に公開 |
| 1989(平成元年) | 美術学部二部(絵画学科、デザイン学科、芸術学科)開設 |
| 1992(平成4)年 | 多摩芸術学園廃止。美術学部臨時定員増 |
| 1995(平成7)年 | 大学院美術研究科昼夜開講制開始 |
| 1998(平成10)年 | 美術学部に情報デザイン学科開設、建築科・デザイン科の改組及びデザイン |

科・芸術学科の定員減により環境デザイン学科、生産デザイン学科、工芸学科を開設。建築科募集停止。美術学部絵画科、彫刻科、デザイン科を絵画学科、彫刻学科、グラフィックデザイン学科に名称を変更。大学院美術研究科芸術学専攻開設

- 1999(平成 11)年 美術学部二部を改組し、造形表現学部（造形学科、デザイン学科、映像演劇学科）開設。
- 2000(平成 12)年 附属美術館を多摩センターへ移転
- 2001(平成 13)年 大学院博士後期課程開設。附属メディアセンター開設
- 2002(平成 14)年 大学院美術研究科工芸専攻開設
- 2005(平成 17)年 美術学部絵画学科、グラフィックデザイン学科、環境デザイン学科、芸術学科定員増
- 2006(平成 18)年 美術学部絵画学科、グラフィックデザイン学科、生産デザイン学科、環境デザイン学科、大学院美術研究科デザイン専攻定員増。附置芸術人類学研究所を設置
- 2007(平成 19)年 大学院美術研究科デザイン専攻定員増
- 2008(平成 20)年 美術学部生産デザイン学科定員増
- 2012(平成 24)年 大学院美術研究科芸術学専攻身体表現研究領域開設
- 2014(平成 26)年 造形表現学部募集停止
美術学部統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科を開設
- 2016(平成 28)年 大学院美術研究科絵画専攻日本画夜間主コース、油画夜間主コース、デザイン専攻コミュニケーションデザイン研究領域、芸術学専攻身体表現研究領域募集停止
- 2018(平成 30)年 大学院美術研究科デザイン専攻統合デザイン研究領域、演劇舞踊専攻を開設

3. 設置学校等

(学) 多摩美術大学 理事長 藤谷 宣人
 多摩美術大学 学 長 建畠 哲

【所在地】

上野毛キャンパス：東京都世田谷区上野毛 3-15-34

八王子キャンパス：東京都八王子市鎌水 2-1723

学部・研究科	学科等	専 攻
大学院 美術研究科	博士後期課程	美術
	博士前期課程	絵画、彫刻、工芸、デザイン、芸術学、演劇舞踊
大学 美術学部	絵画	日本画
		油画
		版画
	彫刻	
	工芸	
	グラフィックデザイン	
	生産デザイン	プロダクトデザイン
		テキスタイルデザイン
	環境デザイン	
	情報デザイン	
	芸術	
	統合デザイン	
演劇舞踊デザイン		

4. 目的・教育目標

[大学の目的・教育目標]

学則の第一章（総則）第一条に、「広く造形芸術全般について高度な学理技能を教授研究し、あわせて国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育者研究者等を育成する」としている。

また、大学院学則第三条に、「造形芸術全般について高度な学理技能及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与する」としている。

専門職業人、作家を育成する上で必要となる、「高い専門性と総合性の融合」を掲げている。

[大学院美術研究科博士後期課程（博士）の目的・教育目標]

大学院美術研究科博士後期課程（博士）は、社会の急速な変化や学術研究の著しい進展に伴い、幅広い視野と総合的な判断力を備えた人材を育成することを目的としている。よって領域に応じた専攻を有する修士課程とは異なり、美術専攻1専攻のみを設置し、領域に捕われない美術創作研究と美術理論研究の確立を目標としている。

[大学院美術研究科博士前期課程（修士）の目的・教育目標]

大学院美術研究科博士前期課程（修士）は、美術・デザイン領域における高度な知識と技能を備えた人材を育成するため、1964（昭和39）年に芸術系私立大学ではわが国初めての認可を受けた。絵画、彫刻、デザインの専攻を設置し、1998（平成10）年に芸術学専攻、2002（平成14）年には工芸専攻を開設して、1研究科5専攻の編成としている。

クラス制の色合いを濃くし、担当教員によるマンツーマンの指導体制を基本とし、領域の専門性を深めることを目標としている。国際的な視野を具えた人材育成のため、多くの外国人留学生を受け入れ、国際化を図っている。1995（平成7）年に昼夜開講制を導入した。

[美術学部の目的・教育目標]

国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育研究者等の育成を目的として、教育研究の内容の充実と高度化を図っている。

美術大学の性格上、来るべき社会に対応する専門的な技能の修得と訓練に重きを置いている。しかし芸術の創作は、人間を忘れ学理を離れた、単なる職能人にとどまることによって達成されないものである。教育理念として懇切な実技指導に加えて、次の2つの特徴が挙げられる。

第一に、学理の尊重は創立以来の本学の伝統である。専門教育ならびに教養・総合教育の両者ともに、広い基礎的教養を育成し、学理を中心とした専門教育の推進に努めている。

第二に、人間の主体性の確立と創造性の開発は、美術教育に不可欠の条件として特に重視している。教養・学理・実技にわたる教育は、同時に豊かな心情と自由な創意と批判的な精神に貫かれた、芸術的個性の形成を目指している。

以上の教育目標実現のため、少人数教育を採っている。カリキュラムは少数の学生を単位に編成され、特にゼミナールを強化して、人間的接触による指導の徹底を期している。また、課題解決型の授業により、自ら思考し、具体化する技能を身に付けることを何よりも重視している。

5. 入学定員・収容定員・学生数・定員充足率

【大学院】

2018(平成30)年5月1日現在

キャンパス	研究科	専攻	研究領域	入学定員	収容定員	学生数	定員充足率	
八王子 及び 上野毛	美術研究科 博士前期課程	絵画	日本画	43	86	91	105.8%	
			油画 版画					
		彫刻			10	20	19	95.0%
		工芸	陶	9	18	11	61.1%	
			ガラス 金属					
		デザイン	グラフィックデザイン プロダクトデザイン テキスタイルデザイン 環境デザイン 情報デザイン 統合デザイン	62	124	137	110.5%	
	芸術学	芸術学	5	10	9	90.0%		
演劇舞踊	演劇舞踊 劇場美術デザイン	8	16	6	37.5%			
小計			137	274	273	99.6%		
	博士後期課程	美術		5	15	18	120.0%	
合計				142	289	291	100.7%	

【学部】

キャンパス	学部	学科	専攻・コース	入学定員	収容定員	学生数	定員充足率	
八王子	美術	絵画	日本画	195	780	(157)	106.4%	
			油画 版画			(544) (129)		
		彫刻			30	120	135	112.5%
		工芸	陶	60	240	269	112.1%	
			ガラス 金属					
		グラフィックデザイン			184	736	749	101.8%
		生産デザイン	プロダクトデザイン テキスタイルデザイン	104	416	453 (183)	108.9%	
		環境デザイン			80	320	355	110.9%
情報デザイン	情報芸術 情報デザイン	122	488	564	115.6%			
上野毛	芸術		40	160	185	115.6%		
	統合デザイン			120	480	507	105.6%	
	演劇舞踊デザイン			80	320	334	104.4%	
合計				1,015	4,060	4,381	107.9%	

()内は専攻内数

総計				1,157	4,349	4,672	107.4%
----	--	--	--	-------	-------	-------	--------

6. 学部学科・専攻別進路状況

2019(平成31)年3月31日現在

大学院	修了者	就職希望者	就職者	進学者	その他
絵画	44 (33)	29 (22)	27 (20)	4 (2)	13 (11)
彫刻	8 (7)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	6 (5)
工芸	5 (4)	4 (3)	4 (3)	1 (1)	0 (0)
デザイン	55 (37)	27 (16)	20 (13)	3 (3)	32 (21)
芸術学	4 (3)	4 (3)	4 (3)	0 (0)	0 (0)
美術(後期課程)	6 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	5 (3)
合計	122 (88)	68 (48)	58 (42)	8 (6)	56 (40)
修了者に対する割合			47.5%	6.6%	45.9%

美術学部	卒業者	就職希望者	就職者	進学者	その他
絵画	190 (148)	109 (94)	103 (89)	38 (26)	49 (33)
日本画	37 (31)	23 (21)	22 (20)	9 (6)	6 (5)
油画	128 (96)	68 (57)	64 (53)	26 (18)	38 (25)
版画	25 (21)	18 (16)	17 (16)	3 (2)	5 (3)
彫刻	29 (17)	19 (10)	18 (10)	4 (3)	7 (4)
工芸	67 (55)	37 (31)	32 (28)	11 (7)	24 (20)
グラフィック	160 (131)	129 (109)	119 (100)	6 (5)	35 (26)
生産	105 (78)	91 (69)	81 (63)	3 (3)	21 (12)
プロダクト	61 (36)	53 (33)	48 (31)	0 (0)	13 (5)
テキスタイル	44 (42)	38 (36)	33 (32)	3 (3)	8 (7)
環境	73 (42)	58 (33)	51 (28)	5 (1)	17 (13)
情報	129 (95)	100 (83)	81 (66)	6 (1)	42 (28)
メディア芸術	66 (47)	47 (39)	36 (29)	4 (1)	26 (17)
情報デザイン	63 (48)	53 (44)	45 (37)	2 (0)	16 (11)
芸術学	33 (24)	23 (19)	19 (17)	2 (0)	12 (7)
統合	97 (70)	79 (56)	69 (48)	2 (0)	26 (22)
演劇舞踊	70 (58)	39 (33)	35 (30)	4 (4)	31 (24)
演劇舞踊	39 (28)	15 (9)	13 (8)	2 (2)	24 (18)
劇場美術デザイン	31 (30)	24 (24)	22 (22)	2 (2)	7 (6)
合計	953 (718)	684 (537)	608 (479)	81 (50)	264 (189)
卒業者に対する割合			63.8%	8.5%	27.7%

()内は女子学生内数

7. 役員に関する情報

2018(平成 30)年 4 月 1 日現在

役員(10名)		評議員(19名) (五十音順)	
理事 7名		評議員	安倍 千隆
理事長	藤谷 宣人	評議員	井上 雅之
理事(学長)	建島 哲	評議員	大貫 卓也
理事	岩倉 信弥	評議員	岡村 桂三郎
理事	高橋 史郎	評議員	久保田 晃弘
理事	田口 敦子	評議員	小泉 俊己
理事	野口 裕史	評議員	高橋 正
理事	本江 邦夫	評議員	建島 哲
		評議員	田淵 諭
監事 3名		評議員	中島 和彦
監事	飛鳥田 一朗	評議員	野口 裕史
監事	荒川 直	評議員	野澤 敏之
監事	森 三千郎	評議員	平出 隆
【参考】 理事定数 7～9名 監事定数 2～4名 評議員定数 19～21名		評議員	深澤 直人
		評議員	藤谷 宣人
		評議員	三浦 武彦
		評議員	本江 邦夫
		評議員	山下 恒彦
		評議員	和田 達也

8. 教職員に関する情報

2018(平成 30)年 5 月 1 日現在

教員数 (本務者)		教員数 (兼務者)	
学 長	1名 (0名)		
教 授	114名 (22名)	客員教授	57名 (15名)
准教授	15名 (4名)		
講 師	11名 (4名)	非常勤講師	402名 (136名)
学部助手	39名 (21名)		
大学院助手	3名 (1名)		
合 計	183名 (52名)	合 計	459名 (151名)

() 内は女性教員内数

◆教員の保有学位・実績等：多摩美術大学教員業績公開システム <http://faculty.tamabi.ac.jp/>

職員数	158名 (73名)
-----	------------

9.学習環境に関する情報

上野毛キャンパス 大学院 美術学部	[所在地] 東京都世田谷区上野毛 3-15-34
	[主な交通手段] 東急大井町線「上野毛駅」下車、徒歩 3 分 東急田園都市線「二子玉川駅」下車、徒歩 12 分
	[キャンパスの概要] 主な施設：本館、1号館、2号館、3号館、 講堂、図書館、A棟、B棟、演劇舞踊スタジオ

八王子キャンパス 大学院 美術学部	[所在地] 東京都八王子市鍵水 2-1723
	[主な交通手段] J R 横浜線・京王相模原線「橋本駅」下車、神奈川中央交通バス「多摩美術大学行」8分 J R 「八王子駅」下車、京王バス「多摩美術大学行」20分
	[キャンパスの概要] 主な施設：本部棟、絵画東棟、絵画北棟、彫刻棟群、工芸棟群、デザイン棟、テキスタイル棟、情報デザイン棟・芸術学棟、共通教育センター、図書館、メディアセンター、レクチャーホール、アートテーク、グリーンホール、体育館、T A Uホール、工作センター、第二工作センター、学生クラブ棟
[運動施設の概要] 体育館、グラウンド、テニスコート	

[学外施設] ・大学附属美術館（東京都多摩市） ・富士山麓セミナーハウス（山梨県） ・奈良古美術セミナーハウス（奈良県）

[附置研究所] ・芸術人類学研究所（八王子キャンパス）

Ⅱ. 事業の概要

1. 中長期的な基本計画

近年、社会に対して大学が担うべき役割は大きく変化してきている。グローバリズムの波が押し寄せる一方では、地域への貢献が強く期待されており、またAIの飛躍的な進展によって産業構造も流動化しつつある。芸術系大学である本学も当然ながらそうした状況に柔軟かつ大胆に対応していかなければならない。長い伝統の中で培われてきた安定した基盤を踏まえ、芸術の王道を行くという矜持を保ちつつ、新たな時代を先導的に切り開いていく人材を育成するという大いなる使命を果たすべく、決意を新たにしているところである。

本学では建学以来「自由と意力」をモットーに掲げてきたが、それを踏まえた具体的な教育方針としてはディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）、アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）という三つのポリシーを定めている。中長期的な事業計画もそれらに基づいて作成されているが、従来以上に重視されているのは、型にはまった職業観のみに拘束されることのない多様な人材を送り出すためにインターディシプリナリーなプログラムを導入し、また入試においても複線化を推し進めて多様な資質を評価しようとしていることである。

アドミッション・ポリシー改革の手始めとして一昨年11月、全学科において推薦入試を実施し、表現者としてオリジナリティ溢れる創造力・発想力・表現力・企画力・応用力・柔軟性等を備えた意欲ある多様な入学生を迎えたところである。

また、学長のリーダーシップのもとに、本年度から研究ブランディング事業としてアート・アーカイヴ・センターを立ち上げる。「創造のためのアーカイヴ」を標榜する学内横断的な研究組織で、資料を集積するばかりではなく、その成果を積極的にWeb、出版、シンポジウム、展覧会などで発信しようとするもので、学内の研究、教育、創作活動を活性化させると共に、学外との交流拠点となることをも目指している。

2018（平成30）年度の事業計画策定にあたり、その前提となる中長期の基本計画は以下の通りである。

- (1) 教育及び研究体制の整備と再点検
- (2) 学生受け入れ態勢の強化
- (3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成のための環境整備
- (4) 国際交流の推進・制度化
- (5) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革
- (6) 研究ブランディング事業
- (7) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備
- (8) 管理運営の強化

2. 2018（平成30）年度 事業計画と達成状況

(1) 教育及び研究体制の整備と再点検

1. 教育課程、教育内容、教育方法等の改善

①教育課程の体系化：

カリキュラム、シラバス、時間割、出校表等の点検により教育課程を体系的に整備し授業と学事の円滑な実施に努めた。

②カリキュラム改革への取り組み：

2015年度に改訂した教養教育カリキュラム設計書に基づく、共通教育時間割のゾーン・ルール化やシェイプアップ化などの改革を進めた。

③美術研究科博士前期（修士）課程における2018年度新設課程の計画履行：

デザイン専攻・統合デザイン領域及び演劇舞踊専攻の設置趣旨、目的に沿った教育研究活動計画を完全履行した。

④産学官連携、地域連携、高大連携、大学間連携：

全国芸術大学系コンソーシアム、大学コンソーシアム八王子、相模原・町田大学地域コンソーシアム、学校法人昭和大学などとの連携協働を通じて様々な組織や地域と芸術文化の振興、事業展開による芸術実践活動や人材育成を推進した。

⑤多様化する学生への対応：

適切、親密な履修相談等を通じて欠席過多学生やケアを必要とする学生への修学支援を推進した。

2. 大学基準協会認証評価（2015年度申請）結果への対応

2017年度に継続して以下の課題解決に取り組んだ。

【教員・教員組織】

①教育課程の編成・実施方針、FD活動：

美術研究科の教育課程の編成・実施方針を課程ごとに定めるため、既存の三つの方針（卒業認定・学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針、入学者受入れの方針）を全面的に改訂し、課程ごとに定めた。

美術学部についても、美術研究科と同様に三つの方針を全面的に見直した。

授業改善の他、教員の資質向上のためのFD活動として研修会や講演会などを継続実施した。

【教育内容・方法・成果】

②教育課程・教育内容：

美術研究科博士後期課程は課程制大学院制度の趣旨に照らして改善し同課程に相応しい教育内容を提供した。

③教育方法：

年間履修登録可能単位数の上限設定について検討した。

④成果：

美術研究科の諸課題について検討するため、「大学院PT」を設け、審議を行った。これにより問題点の把握につとめ、課題改善の端緒とした。

【内部質保証】

⑤自己点検・評価：

全学的なPDCAサイクルを機能させるため、課題ごとにワーキング・グループやPT（プロジェクト・チーム）を組織して集中的に検討を行い、改善・改革

案を学内改革・大学評価申請本部に答申することによって、内部質保証についての恒常的な組織体制を構築した。

3. 研究成果発表の充実

①アートテーク：

ギャラリースペースやアーカイヴ研究、各種コレクション収蔵、自由デッサン室、大学院博士後期課程アトリエ、メモリアルルームなどで構成される知と創造の芸術的複合施設の利用による各種研究成果発表の充実向上を進めた。

②各棟ギャラリー：

各棟所在のギャラリー運営を各研究室へ移管する事で可能になった、適宜効果的な教育研究成果の発表を実施した。

(2) 学生受け入れ態勢の強化

1. 推薦入学試験の実施

3年目となった推薦入試における志願者数は横ばいだったが、それぞれの分野で望まれる資質、そこで学ぶ積極的な意欲、将来への明確な姿勢などを総合的に試す推薦入学試験を継続実施することで、表現者としてオリジナリティに溢れた意欲ある多様な入学生を迎えることができた。

2. 進学相談会等の取り組み

オープンキャンパスと進学相談会の同時開催を7月14日（土）、15日（日）の2日間実施、11月2日（金）～4日（日）開催の芸術祭においても進学相談会を実施し密度の濃い情報提供を行った。更に高等学校教員が開催する各種大会や協議会などについても取り組みを強化した。

3. 学生支援

- ①学生生活調査の結果を活用した学生支援体制の構築を図った。
- ②八王子キャンパス南側（本学所有地）における学生寮建築計画を推進した。
- ③2015年から本学学生の受け入れが始まった優先寮への入居者数が増加した。
- ④奨学金制度及び授業料減免制度による奨学事業（総額2億円余）を滞りなく進めた。

(3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成のための環境整備

1. 新たな交換留学実施のための海外協定校拡充

海外へ赴く学生や海外から受入れる留学生を通じて、グローバル感覚が涵養されることから海外協定校の拡充を進め24大学となった。

2. 2018年度交換留学制度（派遣・受入）

交換留学により協定校との連携を深め、双方の交流を図りグローバルな人材育成の一助とした。

○交換留学生<派遣> 合計 11 大学 17 名

- ベルリン芸術大学 (ドイツ) 3 名
- アアルト大学 (フィンランド) 2 名
- 弘益大学校 (韓国) 2 名
- オスロ国立芸術大学 (ノルウェー) 2 名
- シンシナティ大学 (アメリカ) 2 名
- ロイヤル・カレッジ・オブ・アーツ (イギリス) 1 名
- グラスゴー美術学校 (イギリス) 1 名
- チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ (イギリス) 1 名
- 国立台湾芸術大学 (台湾) 1 名
- シラパコーン大学 (タイ) 1 名
- 国立高等装飾美術学校 (フランス) 1 名

○交換留学生<受入> 合計 16 大学 26 名

- ベルリン芸術大学 (ドイツ) 4 名
- ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン (アメリカ) 2 名
- シンシナティ大学 (アメリカ) 2 名
- ヨーテボリ大学 (スウェーデン) 2 名
- オスロ国立芸術大学 (ノルウェー) 2 名
- アアルト大学 (フィンランド) 2 名
- グラスゴー美術学校 (イギリス) 2 名
- 中央美術学院 (中国) 2 名
- 国立台北芸術大学 (台湾) 1 名
- 国立台湾芸術大学 (台湾) 1 名
- 弘益大学校 (韓国) 1 名
- シラパコーン大学 (タイ) 1 名
- ナショナル・インスティテュート・オブ・デザイン (インド) 1 名
- 国立高等装飾美術学校 (フランス) 1 名
- ヘリット・リートフェルト・アカデミー (オランダ) 1 名
- チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ (イギリス) 1 名

3. パシフィック・リム「Pacific Rim」プロジェクト

1981 年度にアートセンター・カレッジ・オブ・デザイン (アメリカ) が実施した研修会に本学学生が参加して以来、28 年間に亘り継続された海外交流を 2006 年度から「Pacific Rim」プロジェクトと呼称し、隔年毎に学生が相互の大学を訪れて環境保護や自然災害など時勢に沿った社会問題等をテーマとして、学生同士が協働して行う学際的協働研究授業を実施してきた。

13 回目となる 2018 年度は 9 月～12 月に日本ステージが開催され、「Taste Making Tokyo」をテーマに実施した。

(4) 国際交流の推進・制度化

創立 90 周年を迎える 2025 年までに以下の課題に取り組む。

1. 海外大学との連携

国や地域のバランスを考えつつ協定校を 25 校へ増加させることを目標に掲げた
が、2018 年度現在、海外協定校は 24 大学となった。

2. 海外留学の促進

海外協定校との交換留学プログラムに参加する学生に、派遣時期・期間や奨学金
など参加しやすい環境を整え年間 20 名の派遣を目標に掲げたが、2018 年度は前年
度より 2 名増の 17 名だった。

3. 学内の国際化

留学生との交流を活発にするため受入れ留学生数 400 名を目標に掲げたが、2018
年度で 435 名となり目標を達成した。

今後は、日本語が苦手な海外協定校からの交換留学生に対し、英語対応可能な科
目の拡充と基礎的な日本語能力が身につく機会の提供に努めたい。

4. 地域のグローバル化対応に貢献

引続き地元中学校との連携促進とともに地域のグローバル化対応を支援及び外
国人留学生の地域行事への参加を通じて住民との交流を促進していく。

5. 外国人留学生への就職支援

引続き外国人留学生対象の就職説明会の実施、求人情報やイベント案内の提供、
外国人留学生の就職相談窓口の明確化などの就職支援を強化していく。

(5) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革

美術学部は八王子キャンパスに 8 学科 5 専攻 2 コース、上野毛キャンパスに 2 学
科 2 コースが設置され、それぞれが高い専門性を持った教育研究を進める一方で、
各学科が個別にタテ割りで貫かれておりやや総合性に欠けることがある。

これを補う視点から、本学が目指す専門的職業人や独立した作家の育成に不可欠
なプログラムとして、全学年・全学科の学生が履修できる課題解決型の P B L

(Project Based Learning) 科目や企業及び自治体との産学官共同研究、著名な企
業人や作家を招く特別講義など全学科対象のオープン科目を導入し、学生が授業を
通じて触発し合うことにより、柔軟な考え方や新たな創造を生み出す取り組みを継
続的に実施した。

また、共通教育においては総合的な教養に配慮して芸術を目指すものの基盤を重
視した科目を配置した。

(6) 研究ブランディング事業

学長のリーダーシップのもとで、学内における特色ある研究の成果を自ら大学の
価値に位置付け再整理し、広く世に伝えるためのプロセス設計や全学的管理体制の

仕組みを構築し自校のブランディングに繋がる活動全般について事業計画を策定、実行に移した。

(7) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備

本学の校地及び校舎面積は国が定める大学設置基準を満たしており、上野毛キャンパスと八王子キャンパスにおいて、それぞれの立地の特性を活かした教育研究活動が行なわれている。

特に教育研究領域に対応する専門施設に加え、共同施設（図書館、美術館、メディアセンター、アートテーク、セミナーハウス奈良飛鳥寮・山中純林苑、アキバタマビ21等）も充実しており所属学科領域外のことに触れて学ぶことができる十分な環境が整備されている。

1. 上野毛キャンパス整備

- ①キャンパスに隣接する道路（都道駒沢通り）拡幅計画にかかる対応を進めた。
- ②上野毛キャンパス整備計画の策定を進めた。

2. 八王子キャンパス整備

- ①過年度に実施された施設設備の修繕や改修工事履歴に基づく、長期修繕計画をまとめ効果的な施設設備の改修工事を実施した。
- ②キャンパス整備計画により建築され、その後維持改修計画を策定された各建物を計画に基づき改修した。
- ③八王子キャンパス南側遊歩道隣接地における学生寮の建築計画を推進した。
- ④学生食堂に付帯する売店をコンビニエンス化して機能と利便性の向上を高めた。

(8) 管理運営の強化

1. 人事・労務管理

- ①新規に導入した人事システムへの移行作業を進めた。
- ②人事システムとの連携による勤怠管理システムについては業者選定が終わった。
- ③人事・サービス関係規程の課題を整理し、一部見直し（改正）を行った。

2. 人材育成 ー職員の資質・能力向上ー

- ①職員力・組織力の強化を目的にSD研修を充実させ、従来の目標管理制度に加え新たに人材育成と連動した人事考課制度を導入した。
- ②自己申告制度に基づく個別面談を実施した。

3. 法改正及び危機管理対応

- ①ストレスチェックの利用率が向上した。
- ②マイナンバー収集システムの機能を把握し、共済手続きとの連携を強化した。
- ③防火防災計画の更新、災害備蓄品の見直しを行い、災害発生時の地域自治体との協力・連携について確認した。

4. 財政基盤の強化

- ①消費税引き上げによる影響額を算出し、学費見直し案の作成や、寄付金・受取利息等の収入増加策を検討し、教育研究経費の維持に努める案を作成した。
- ②寄付金では新たに「多摩美サポーター募金」を開始し積極的な募金活動に努めた。
- ③教育研究経費は現状維持となったが、管理経費の3%減は達成できなかった。
- ④2038年度までの財務シュミレーションを作成し、学生数や経費の増減率を設定することにより、キャンパス整備計画の財務的な判断材料とすることができた。

3. 各部署の取組み

1. 教育改革面

(1) 教務部

①教育課程、教育内容、教育方法等の改善に向けた取組み

2016年度策定の共通教育の新カリキュラムについて、2017年度から着実な履行に努め、2018年度も継続して実施した。カリキュラム設計等の基本仕様を策定したことによって、科目区分が整理され、授業科目の統廃合が推進された。

厳格な成績評価への取組みとして、S評価の基準をより明確化し、共有化を図った。

学生の履修・単位修得における手引きである「履修案内」について、各学科の掲載内容に精粗があったので、項目を整理して統一化を図った。

2016年に包括連携協定を締結した学校法人昭和大学との大学間連携では、2017年度の取組みに加えて、プロダクトデザイン専攻が「身体障害作業療法技術論」への授業参加、芸術学科・家村ゼミによる「展覧会設計」プロジェクトなど新たな取組みを行った。

2018年度から設置した美術研究科博士前期課程のデザイン専攻統合デザイン領域及び演劇舞踊専攻については、教育水準の維持・向上に資するよう、設置計画に基づく確実な履行に努めた。

②大学基準協会大学評価（2015年度申請）における指摘課題への対応

本学大学院に係る諸問題の解決に取り組むため、大学院P T（プロジェクト・チーム）を結成し、組織的な改善に向けて取組みをスタートした。2018年度は大学院をめぐる諸状況（大学院の実質化などの文科省政策）について理解を深め、本学大学院における現状の問題点を認識し、共有化を図るため、各専攻領域からのアンケート調査を実施した。

また、大学院生に対するインタビューも実施した。大学院P Tは、自己点検・評価部会ワーキンググループ会議とも連携して、大学院の三ポリシーの策定にも反映されている。大学院P Tでは、今後も継続して大学院改革に取り組む、大学基準協会からの大学院に関する指摘課題についても改善していく。

内部質保証の取組みの一環として、自己点検・評価部会ではワーキンググループのメンバーが中心となり、三ポリシーの策定とあわせて、大学の理念、目的、目標に沿った検証と見直しを行った。

③三つのポリシーの一体的な策定及び公表

「卒業の認定に関する方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）、「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）（以上「三

つのポリシー」)については2017年7月から自己点検・評価部会ワーキンググループ会議で集中審議を行い、見直しを行った。これによって、美術学部及び各学科のポリシーが一体的に再整備された。

また、大学院についても見直しを行い、博士前期課程(修士課程)と博士後期課程のポリシーが完成した。2019年度から各専攻領域の検討を開始する。今後は、内部質保証のさらなる取組みとして、三ポリシーに基づきPDCAサイクルを推進していく。

④教職課程の再課程申請にかかる2019年度からの新課程実施に向けた準備と履行

教員免許法改正に伴う教職課程の美術免許に係る再課程申請は、文部科学省に認定された。2019年度から新課程を着実に履行していくため、新たな教員配置、時間割の整備、履修の手引きの改訂など、準備を行った。

⑤新コンピュータシステムへの移行

学籍データを始め、システム移行に係る作業を大きな障害もなく行えた。

⑥国際交流の推進・制度化等によるグローバル化

ローザンヌ美術大学(スイス)及びウィーン応用美術大学(オーストリア)と新たに協定を締結した。

オスロ国立芸術大学(ノルウェー)との国際交流プロジェクト「Connecting Wool」を実施した。その際、ノルウェー教育国際協力センターからの助成金を活用した。

Pacific Rim13(日本ステージ)を実施した。

2019年度のアアルト大学との共同ワークショップ実施のため、スカンジナビア・ニッポンササカワ財団からの助成金を獲得した。

オスロ芸術大学との受入・派遣交換留学生に支給されるErasmus+の奨学金に申請した。

独立行政法人日本学生支援機構の2019年度海外留学支援制度(協定派遣)申請プログラムにPacific Rim Projectが採択され、プロジェクト受講学生に奨学金が給付されることとなった。

留学ハンドブック2018-2019が作成した。

国際交流危機管理マニュアルが制定した。

(2) 入学センター

①推薦・特別・大学院入学試験のWeb出願システムの導入と実施

初年度としての一般入学試験以外のWEB出願と合否システムは順調に稼働した。

また、入試変更点の検証もシステムに反映することができた。

②外国人留学生の対応について

大学院入試、研究生選考は予想を上回る志願者の増加に運営が追いつかない現状ではあるが、他部署の協力や日本語検定の指定するスコア・レベルを出願資格に取り込むことを2月に告知できた。

また、大学院事前面談についても申し込みの増加が凄まじく、面談を受けることが当然のようになっている意識を変えるまでには至らなかった。

③大学入学共通テスト(新テスト)導入について

高大接続改革のひとつとして大学入学共通テストの導入も検討事項の一つとして話し合い等を重ねてはいるが、あまり進まなかった。プレテストの結果という点での検証は十分に

できておらず、対内的な視点で論議することが多かった。

④新しい広報ツール利用による効果的な広告や資料発送の実施

高校教員対象説明会は「多摩美術大学高大交流会」と名称と内容を一新し、新たなる展開を図った。大学説明会というカテゴリではなく高大接続をテーマに全領域に参加頂き高校の先生から高い評価を得た。

また、全国のステーション化を図り各ブロックの有力な先生方との関係性を構築することに成功し今まで志願していなかった高校からの志願者が増加した。

さらに新しい取り組みとして、志願者数減に苦しんでいたり新しい取り組みを行っている版画、メディア芸術、芸術学科では、試験科目や取り組みをフライヤーとは別にチラシを作成し全ての接触者に配布し、版画・芸術学科は一般入試で、メディア芸術は推薦でその効果が出た。

⑤有効なイベント計画と広報業務の効率化

全領域を過不足なく広報するため全体的な広報ではより多くの高校ガイダンスに参加し、地方相談会では会場の高校や予備校に訪問や講演会を提案し実施した。

さらに研究室とも連携をとり今まで以上に模擬講義・ワークショップなども積極的に取り組み実施した高校から志願があり成果がみられた。

オープンキャンパスでは団体での参加を呼びかけ志願が低い生徒のきっかけとなる取り組みも行った。美術系進学相談会以外の参加では建築系や演劇系の強化に繋がった。

また、韓国の予備校の説明会を5校に増やした結果、志願者・入学者増に繋がった。

⑥公的機関との連携強化

全国の芸術系美術系大学の中で一番のアピールを発揮出来た年だった。特に全国高等学校美術工芸研究会埼玉大会では4年前から準備していた記念講演に和田教授が登壇し、ブースには長蛇の列が出来て多くの先生方との交流が図れた。

また、美術高校設置校の協議会や高校の先生方主催の進学イベントにも積極的に参加した。

さらに演劇系では教員に協力を頂き、多くの高校の先生に多摩美術大学を認知して頂くことが出来、志願者の多くが演劇部出身ということからも効果が伺えた。

(3) 研究支援部

①外部資金による研究費使用事例集や科研費学内ルール改訂版の作成、個人研究費/共同研究費事例集の公開や説明会などを行った。

②前年度内部監査の指摘事項を改善、公的研究費連絡会議を定例化し問題点の検討を行うなど、検収体制・不正使用の事前防止のための現状見直しを含む体制整備を行った。

③研究成果の発信を強化し、機関リポジトリは70件増加したが、研究戦略の立案はできなかった。

④アートテークの管理については、アートアーカイヴセンター事務室に業務を移管し滞りなく運営できた。

⑤私立大学研究ブランディング事業に応募したが、結果は不採択だった。

(4) 学生部

①奨学金等に関する見直し

日本学生支援機構給付型奨学金の対応を適切に行った。

本学奨学金・減免制度手続きの見直しを図り、2019年度に向けて整備した。

②学生満足度の向上

2017年度での学生生活調査分析実施を受けて、委員会にて調査詳細分析及び問題解決に向けて対応を検討した。

2017年度意見箱を取りまとめた。

③学生支援に関する見直し

2017年度の学生生活調査概要分析、2018年度の詳細分析により、「学生支援の方針」を検討する基盤を整えた。

学生支援の適切性を検証するにあたり、規程を改正し基盤を整備した。

④多様化する学生支援

支援についてホームページ上で公開し、障がいを持つ学生の関係者との情報共有と対応を行った。

退学者の状況分析を行ない、学内で問題点の情報共有を図った。

欠席過多等要ケア学生について、研究室と連携を図り、早期発見と支援（退学者対策）を行った。

学生相談室について専任カウンセラー配置の整備を行い、充実化を図った。

⑤上野毛キャンパス学生への課外活動等支援

クラブ加入率を高めるため、クラブ交流会の実施や学生との懇談会を3回実施し、状況把握に努めた。

上野毛キャンパスでの学生同士の交流について検討し、交流掲示板を設置した。

地域連携によりボランティア活動やコラボレーション情報の提供を行った。

⑥進路・就職支援の推進強化

就職内定率は3月31日現在で88.9%となっており、最終的には前年度と同様90%以上となる見込みである。

⑦ガイダンス・学内企業説明会参加率の向上

研究室との連携は指導連絡会や研究室訪問を通じて強化されたが、ガイダンス参加者は少ないままだった。研究室との連携をより強化するとともに学生への告知方法なども検討していきたい。

⑧低学年からの進路・就職に対する意識向上

低学年向けのプログラムを強化することはできなかった。今後は学内説明会の対象学年を広げることによりキャリア意識の向上を図りたい。

⑨上野毛美術学部進路・就職支援対策

前年度よりも就職内定率、就職先ともに向上した。学生相談も大きく増え、結果に繋がったと思われる。

⑩配慮を要する学生及び留学生への進路・就職支援

学生相談室や学生課と連携を取り、合理的配慮学生に対しては支援の強化が図れた。

留学生に対しては、オリエンテーションへの参加、ガイダンスの実施などを行った。

(5) 図書館

①「学生のための図書館」サービスの充実と学内利用者の満足度向上

各館の特色を生かした蔵書構築を進めるとともに、上野毛図書館については地下書庫を事前申請により利用可とし、八王子図書館については所蔵資料の通年展示を行ったことで、資料の充実を印象付けることができた。

また、業務マニュアルを見直し両館の接遇の均一化を図り、さらに八王子では一部家具の補修を行うなど学習環境を改善した。

②大学からの情報発信への貢献

井上忻治・北吟吉寄贈資料の整理が終了し、アートテークへ移管した。

また、瀧口・北園文庫の閲覧・貸出については個々に対応を行ったが、機関リポジトリについては協働体制の構築中である。

③開かれた図書館を目指して

投書箱への意見に真摯に対応した。

アーケードギャラリーの利用規定を見直し、アートテークギャラリーとの共同運用の検討を行った。

また、海外からの見学者用パンフレットを作製するなど、見学者対応について改善した。

④管理・運営のレベルアップ

両館業務のシームレス化、統一化は一部施設面での違いを除き達成できた。

また、LIMEDIO と入館ゲートの仮想サーバへの移設はメディアセンター事務室の協力により年度内に完了した。

(6) 美術館

①展覧会：収蔵コレクション展等年間7本

②学芸員実習：受入れ42名、59日間

③アウトリーチ活動：美術鑑賞授業109名、施設見学22名

(7) メディアセンター

①研究センター：研究成果アーカイブの作製、各棟ギャラリー展示のVRでのアーカイブ化

②情報センター：ネットワーク機器の老朽化への対応、サーバー機器交換

③映像センター：高性能PCを順次更新、LED照明の導入、授業・授業時間外対応の促進

④写真センター：施設・機材の有効活用、講習会の開催、貸出機材の更新

⑤工作センター：安全衛生診断に基づく安全第一の運営、3D切削機の稼働

⑥CMTEL：素材配布イベントの実施、ワークショップの開催、施設の授業利用

⑦上野毛スタジオ：講習会の開催、機材の調達・整備

⑧事務室：サイネージの設置・活用

(8) 生涯学習センター

①生涯学習事業を通じて本学の持つ潜在的な力・リソースによる社会へのアピール

新シリーズ『〇〇世紀の芸術家列伝』の立ち上げにおいて、全教員に周知し協力を仰ぎ、積極的な参加を得て企画を立ち上げた。

②こども講座における事業展開と新たな連携プロジェクトの発掘

「福島震災後支援プロジェクト」での『あそびじゅつ』は、支援団体・現地主催者との連携も図れ、5年間の活動は好評を得て終了した。

また、八王子市立高尾山学園小学部からの依頼による『あそびじゅつ』を開催した。

③都心及び上野毛キャンパス周辺で行うフラッグシップ事業の検討

新シリーズ『〇〇世紀の芸術家列伝』を立ち上げた。

④上野毛キャンパスでの活動再開を視野に入れた中・長期的プラン作成

上野毛又は都心での特徴を生かした旗艦講座の検討については、大学全体の動向を見ながら、中・長期的に考えていく。

⑤WEBや他広報媒体の活用で、活動の周知と事業の更なる活性化を図る

HPを改修しWEB申し込みの実運用を開始した。

また、HP上で「講座レポート」のかたちで、活動内容の発信に力を入れた。

(9) 芸術人類学研究所

①研究プロジェクトと連動した大学内外における連携活動の推進と教育活動

「第6回『土地と力』シンポジウムー物質と生命」、アイルランド、スカンジナビアの線刻画の拓本展示「はじまりの線刻画ーアイルランド・スカンジナビアから奄美群島へ」などを通じて、研究成果を報告した。「土地と力」シンポジウムでは芸術表現と密接な関係がある「もの」に着目し、人間と物質、生命と環境、表現と作品の関係を再考し、各所員が専門とする様々な分野にわたった議論を展開した。また線刻画展示では、13日間の会期中に学内外から1600名におよぶ来場者を記録するとともに、開催運営のサポーター活動において本学学生の積極的な参加もあり、本展での経験が学生にとって新たな関心や意欲にもつながる機会となった。

②研究会・プロジェクトの推進とプロジェクト間の連携

「土地と力」プロジェクト、ならびに研究5部門（ユーロ＝アジアをつらぬく美の文明史、野外をゆく詩学、纏れのデザイン、贈与と祝祭の哲学、来たるべき美術）を相互に連携させ、研究会やシンポジウムを開催した。従来では人類学の一角に限定されてきた芸術の歴史・思想による創造性を「人類史のスパン」から再考し、それらの成果は研究所紀要『Art Anthropology』第14号として学内外に発信した。

2. 管理運営面

(1) 総合企画室

①入学試験に関する市場調査並びに諸統計などの取集・分析

大学進学指標による高校ランク調査を実施し、10年前と現在の志願者、合格者、入学者、休学・中退学者、進路決定者の高校ランクを比較調査した。状況を各学科へ具体的に伝えることで課題を共有できた。

②広報誌のクオリティアップ

理工系（デザイン、建築、情報）に奪われてしまった進学校の生徒（主に男子）奪還するために、「大学案内」で多摩美全体の魅力を訴求、「AI時代に勝ち残るための進路選択」で社会潮流と卒業生で美大の魅力を訴求した。

また、「TAMABI NEWS」を年4回発行し、映像、ゲーム、課題発見力、国際性を特集した。

③ホームページの見直し

新規に受験生向けランディングページを7月に公開し、「AI時代の進路選択」、「多摩美の試験の紹介」、「センター試験のみ入試」、「企業人にきく」などのコンテンツを制作した。

また、SNSの発信を強化したことで、登録数が増加した。

④大学広報・IR活動の強化

雑誌広告を見直し、新規ターゲットへのアプローチ強化に集中した。

⑤パブリシティの獲得

取材受け入れのレギュレーションを設定し、雑誌・新聞6本、WEB5本、地上波テレビ6番組に対応した。

(2) 総務部

1. 施設整備計画

【上野毛キャンパス】

①整備計画の始動

駒沢通り拡幅工事について、都との折衝が行われている。

また、再開発に向けた打合せが実施されている。

【八王子キャンパス】

②南側隣接地へ学生寮新築

2019年9月に着工、2020年11月竣工予定で進めている。

③GHP・EHP空調更新工事

デザイン棟のファンコイルユニットの更新（4階及び1階一部）を実施した。

④受変電設備更新工事

絵画北棟を実施した。

⑤和式トイレを洋式化へ改修

Ⅲ期に分けて実施予定で、Ⅱ期工事まで完了した。

⑥学内売店のコンビニエンスストア化

学内にセブンイレブンが開設され、機能と利便性が向上した。

【美術館】

⑦受変電設備、火災受信盤、防火シャッターの更新

計画通り更新を完了した。

2. 管理運営計画

①労務管理・人事評価制度の見直し

交通費について、実費支給に見直し運用されている。

事務組織の見直しが行われ、新たに事務職員に昇給用人事考課制度が導入された。

②人材の採用・育成

新卒については、内定には至らなかったが、中途採用を実施し人材を確保した。

学内集合研修、学外SD研修・業務研修（公開講座）を組み合わせる研修を実施した。

自己申告制度を実施、面談結果を取りまとめた。

③法改正及び危機管理への対応

働き方改革関連法への対応など規程の見直しを行った。

ストレスチェックを実施、周知の徹底等により受検率が向上した。

上野毛キャンパスにおいて、避難訓練を実施した。

④山中純林苑、奈良飛鳥寮セミナーハウスの管理・運営

課題を整理し利用ルールを見直し学内に周知したことで円滑に運営できている。

⑤各建物の長期修繕計画推進

八王子キャンパス全体の修繕計画案ができ、次年度計画建物について予算申請を行う。

⑥災害備蓄品の更新

内容を見直し、補充を行った。

(3) 経理部

①資産運用基準変更及びポートフォリオの実践

資産運用基準を見直し、メガバンク以外にも生保・損保の劣後債を購入することで受取利息・配当金収入を増加させることができた。

さらなる増加のために、よりきめ細かいポートフォリオを組み、リスクの分散を図りたい。

②経営判断資料として2038年までの財務シミュレーションを作成

2038年度までの財務シミュレーションを作成し、学生数や経費の増減率を設定することにより、キャンパス整備計画の財務的な判断材料とすることができた。

③財務基盤強化

教育研究経費は現状維持となったが、管理経費の3%減は達成できなかった。

しかし、新たに「多摩美サポーター募金」を開始し、積極的な募金活動に努めた。

④2019年10月消費税増税にかかる対応策の検討

消費税引き上げによる影響額を算出し、学費見直し案の作成や、寄付金・受取利息等の収入増加策を検討し、教育研究経費の維持に努める案を作成した。

Ⅲ. 平成30年度 予算執行状況および財務状況

当期の予算執行および財務状況について、概要を報告します。

(会計についての詳細はホームページの「多摩美術大学について」→「会計・事業報告」をご参照ください)

1. 資金収支計算

資金収支計算について、その主な内容を報告します。
なお、金額は千円未満を四捨五入して表示しています。

【資金収支計算総括表】

(収入の部)		(単位:千円)		
科目	予算	決算	差異	
学生生徒等納付金収入	7,601,060	7,689,009	△87,949	
手数料収入	192,950	212,889	△19,939	
寄付金収入	850	4,398	△3,548	
補助金収入	555,400	556,528	△1,128	
資産売却収入	500,150	500,150	0	
付随事業・収益事業収入	28,950	34,702	△5,752	
受取利息・配当金収入	46,900	64,260	△17,360	
雑収入	317,500	337,794	△20,294	
借入金等収入	0	0	0	
前受金収入	3,403,910	3,882,591	△478,681	
その他の収入	318,166	377,663	△59,497	
資金収入調整勘定	△4,117,073	△4,192,938	75,865	
当年度資金収入合計(A)	8,848,763	9,467,046	△618,283	
前年度繰越支払資金	14,553,358	14,553,358	0	
収入の部合計	23,402,121	24,020,404	△618,283	

大学院の定員充足等により予算額を上回りました。

多摩美サポーター募金の開始等により予算額を上回りました。

私立大学経常費補助金5億5,609万円、うち特別補助6,055万円(社会人の組織的受入117万円、国際交流の基盤整備2,049万円、大学院等の機能高度化1,417万円、授業料減免及び学生の経済的支援2,422万円、平成30年7月豪雨等からの復興支援50万円)の交付がありました。昨年度より特別補助額は増加しましたが、一般補助額は学校配点が下がり減少しました。

利付国庫債券2億円、政府保証債券2億円、財投機関債券1億円の有価証券満期償還額です。

生涯学習講座による公開講座収入は減少しましたが、受託研究収入や教員免許更新講習料収入が増加し、予算額を上回りました。

長期金利は低水準が継続していますが、銀行の定期預金、債券の新規購入による資産運用額の増加により予算額を上回りました。

(支出の部)				
科目	予算	決算	差異	
人件費支出	4,241,198	4,103,155	138,043	
教育研究経費支出	2,068,279	1,829,441	238,838	
管理経費支出	403,300	335,287	68,013	
借入金等利息支出	1,150	1,114	36	
借入金等返済支出	54,720	54,720	0	
施設関係支出	330,350	93,594	236,756	
設備関係支出	516,000	356,004	159,996	
資産運用支出	1,609,870	1,609,833	37	
その他の支出	400,315	384,916	15,399	
予備費	373,400	—	373,400	
資金支出調整勘定	△327,523	△304,941	△22,582	
当年度資金支出合計(B)	9,671,059	8,463,123	1,207,936	
翌年度繰越支払資金	13,731,062	15,557,281	△1,826,219	
支出の部合計	23,402,121	24,020,404	△618,283	

退職金は昨年度より増加しましたが、他の人件費全体が抑えられ予算額を下回りました。

光熱水費、奨学費、印刷費、修繕費、新聞雑誌費、支払報酬手数料等が昨年度決算額よりも増加しましたが、消耗品費や旅費交通費、営繕費等の減少もあり全体としては予算額を下回りました。

八王子キャンパス…レクチャーホール、テキスタイル棟、彫刻棟のトレイ改修、売店改修工事、CAD室改修工事、絵画北棟パーティション設置工事等。上野毛キャンパス…1号館ライティングレール新設工事等。美術館…火災受信機基盤更新工事。山中セミナーハウス…井戸新設工事。

減価償却引当特定資産を10億円増額(合計83億円)しました。多摩美サポーター募金により第3号基本基金引当特定資産を増額しました。有価証券を新規に購入しました。

上記により次年度繰越支払資金が予算対比、前年度決算額対比で増加しました。

当年度資金収支差額(A)-(B)	△822,296	1,003,923	△1,826,219
------------------	----------	-----------	------------

2. 事業活動収支計算

事業活動収支計算について、その主要内容を報告します。

【事業活動収支計算総括表】

(単位:千円)

科目		予算	決算	差異
教育活動収支	学生生徒等納付金	7,601,060	7,689,009	△87,949
	手数料	192,950	212,889	△19,939
	寄付金	850	2,715	△1,865
	経常費等補助金	555,400	556,527	△1,127
	付随事業収入	28,950	34,703	△5,753
	雑収入	313,000	333,583	△20,583
	教育活動収入計	8,692,210	8,829,426	△137,216
	人件費	4,241,298	4,072,709	168,589
	教育研究経費	3,398,279	3,089,938	308,341
	(うち減価償却額)	1,330,000	1,260,497	69,503
	管理経費	489,350	421,296	68,054
	(うち減価償却額)	86,900	86,858	42
	徴収不能額	0	0	0
教育活動支出計	8,128,927	7,583,943	544,984	
教育活動収支差額	563,283	1,245,483	△682,200	
教育活動外収支	科目	予算	決算	差異
	受取利息・配当金	46,900	64,260	△17,360
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	46,900	64,260	△17,360
	借入金等利息	1,150	1,114	36
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	1,150	1,114	36
教育活動外収支差額	45,750	63,146	△17,396	
経常収支差額	609,033	1,308,629	△699,596	
特別収支	科目	予算	決算	差異
	資産売却差額	549	549	0
	その他の特別収入	6,500	7,233	△733
	特別収入計	7,049	7,782	△733
	資産処分差額	5,350	717	4,633
	その他の特別支出	850	849	1
特別支出計	6,200	1,566	4,634	
特別収支差額	849	6,216	△5,367	
予備費	383,900		383,900	
基本金組入前当年度収支差額比率(注1)	2.6%	14.8%		
基本金組入前当年度収支差額	225,982	1,314,845	△1,088,863	
基本金組入額合計	△314,798	△533	△314,265	
当年度収支差額	△88,816	1,314,312	△1,403,128	
前年度繰越収支差額	△3,399,525	△3,399,525	0	
基本金取崩額	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	△3,488,341	△2,085,213	△1,403,128	
事業活動収入計	8,746,159	8,901,468	△155,309	
事業活動支出計	8,520,177	7,586,623	933,554	

退職金財団からの交付金、科学研究費補助金間接経費等により予算を上回りました。

退職給与引当金は増加しましたが、退職金等の人件費が減少し、予算を下回りました。

減価償却額等の減少により、全体額は予算を下回りました。

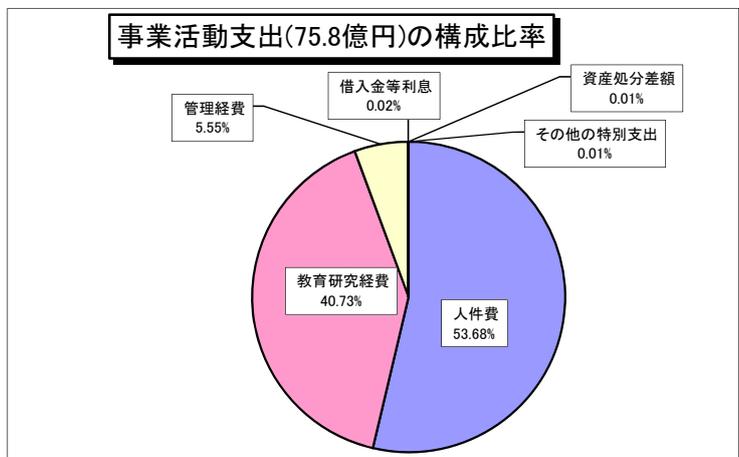
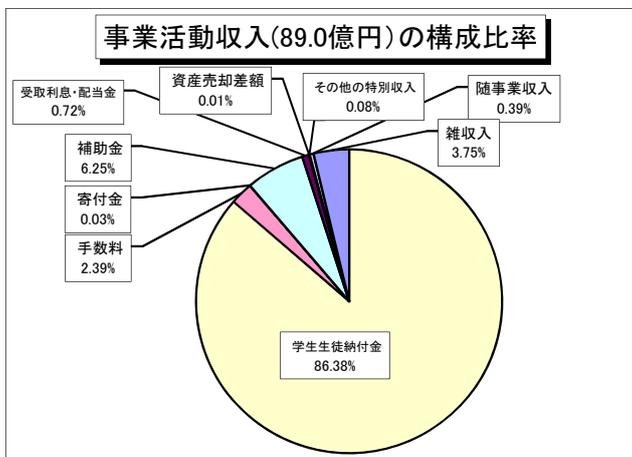
額面以下の価格で購入し運用していた債券(利付国庫債券、財投機関債)の満期償還による額面と購入額の差額及び車両の売却です。

科学研究費補助金から購入された教育研究用機器備品7点、133万円相当額の寄贈がありました。

図書の汚損・紛失・除籍により39万円、美術参考品の入替えにより32万円の処分差額が発生しました。

上記の結果、事業活動収入は89億146万円となり予算を上回りました。また、基本金組入前当年度収支差額比率は14.8%になりました。これは今後の継続的な施設整備計画の資金に充当されます。当年度の収支差額は13億1,431万円となり翌年度繰越収支差額は△20億8,521万円と改善しました。この繰越収支差額は、将来計画にかかる基本金の先行組入れ(70億円)や借入金に頼らない施設設備充実の結果生じた基本金組入れによるもので、中期的には解消し今後も事業活動収支の均衡がとれた運営を目指します。

注1 基本金組入前当年度収支差額比率=基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入計×100



3. 貸借対照表

貸借対照表について前年度からの増減と5カ年推移を報告します。
(資産の部) (単位:千円)

科目		H30年度末	H29年度末	増減
資産	固定資産	55,273,964	55,200,679	73,285
	有形固定資産	34,975,920	35,928,236	△952,316
	特定資産	17,726,921	16,763,874	963,047
	その他の固定資産	2,571,123	2,508,569	62,554
	流動資産	15,917,433	14,818,478	1,098,955
合計		71,191,397	70,019,157	1,172,240

建物… キャンパス内各棟トレイ・教室改修、美術館火災受信機基盤更新、売店改修工事他。
教育研究用機器備品… 教学システムサーバー機器、3Dプリンター、3Dスキャナー、iMac他。
美術参考品… 室越健美絵画作品4点、米谷清和絵画作品12点、安倍千隆彫刻作品10点。
その他… 図書、構築物、管理用機器備品、美術参考資料、車両、建設仮勘定の取得。

(負債の部・純資産の部)

科目		H30年度末	H29年度末	増減
負債	固定負債	1,949,124	1,979,570	△30,446
	流動負債	4,419,327	4,531,487	△112,160
	合計	6,368,451	6,511,057	△142,606
純資産	基本金	66,908,159	66,907,626	533
	第1号基本金	59,035,922	59,035,922	0
	第2号基本金	7,019,624	7,019,624	0
	第3号基本金	372,613	372,080	533
	第4号基本金	480,000	480,000	0
	繰越収支差額	△2,085,213	△3,399,526	1,314,313
	合計	64,822,946	63,508,100	1,314,846
負債および純資産の部合計		71,191,397	70,019,157	1,172,240

「第3号基本金引当特定資産」は寄付による基本金増より53万円の増加。「減価償却引当特定資産」残高は10億円増額し83億円。「退職給与引当特定資産」残高は退職給与引当金が減少したことから3,044万円減の19億4,912万円。多摩美術大学創立80周年記念奨学金基金引当特定資産残高は奨学金給付による取崩し930万円と寄付金及び利付国庫債券による運用益226万円との差額704万円の減少。保有の有価証券は、引当特定資産分を含め45.3億円(H31/3月末現在の取得価額に対する評価はプラス2億254万円)で昨年度比10億円の増加。

現金預金残高は前年比10億392万円増加し155億5,728万円、退職金財団交付金等の未収入金が1億21万円増加し3億289万円、前払金は67万円減少し5,685万円。

長期借入金残高は0円となり、退職給与引当金残高は301名分で3,044万円減の19億4,912万円。

(参考)

減価償却額の累計額	24,038,755	22,929,312	1,109,443
基本金未組入額	39,431	0	39,431

第1号基本金＝平成30年度の組入額(資産取得)4億5,093万円と当年度除却資産の基本金組入額2億3,863万円との未払金3,942万円を除いた差額1億7,288万円は教育研究用機器備品の繰延額精算となり、組入高はありませんでした。

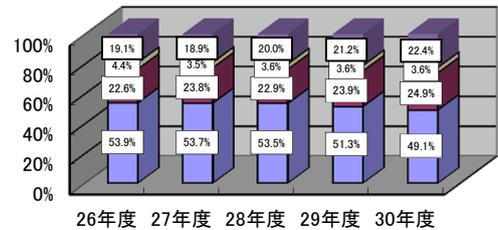
貸借対照表についてH27年度～H25年度を報告します。

(資産の部) (単位:千円)

科目		H28年度末	H27年度末	H26年度末
資産	固定資産	55,090,052	54,871,486	53,860,387
	有形固定資産	36,826,709	36,362,223	35,901,176
	特定資産	15,761,704	16,111,704	15,061,705
	その他の固定資産	2,501,639	2,397,559	2,897,506
	流動資産	13,749,582	12,822,424	12,736,977
合計		68,839,634	67,693,910	66,597,364

資産構成比率

■ 有形固定資産 ■ 特定資産
□ その他の固定資産 ■ 流動資産

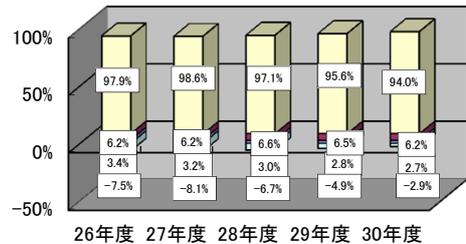


(負債の部・純資産の部)

科目		H28年度末	H27年度末	H26年度末
負債	固定負債	2,092,923	2,185,080	2,285,480
	流動負債	4,526,094	4,197,626	4,156,673
	計	6,619,017	6,382,706	6,442,153
純資産	基本金	66,843,253	66,763,605	65,178,769
	第1号基本金	59,001,549	57,521,901	55,937,065
	第2号基本金	7,019,624	8,419,624	8,419,624
	第3号基本金	342,080	342,080	342,080
	第4号基本金	480,000	480,000	480,000
	繰越収支差額	△4,622,636	△5,452,401	△5,023,558
合計		62,220,617	61,311,204	60,155,211
負債および純資産の部合計		68,839,634	67,693,910	66,597,364

負債、純資産構成比率

■ 固定負債 ■ 流動負債
□ 基本金組入額 □ 繰越収支差額



(参考)

減価償却額の累計額	24,038,755	22,929,312	1,109,443
基本金未組入額	39,431	0	39,431

4. 財務比率<平成26年度から平成30年度>

※芸術系(20法人)平均値は、日本私立学校振興・共済事業団編【今日の私学財政】平成30年度版より算出しました。

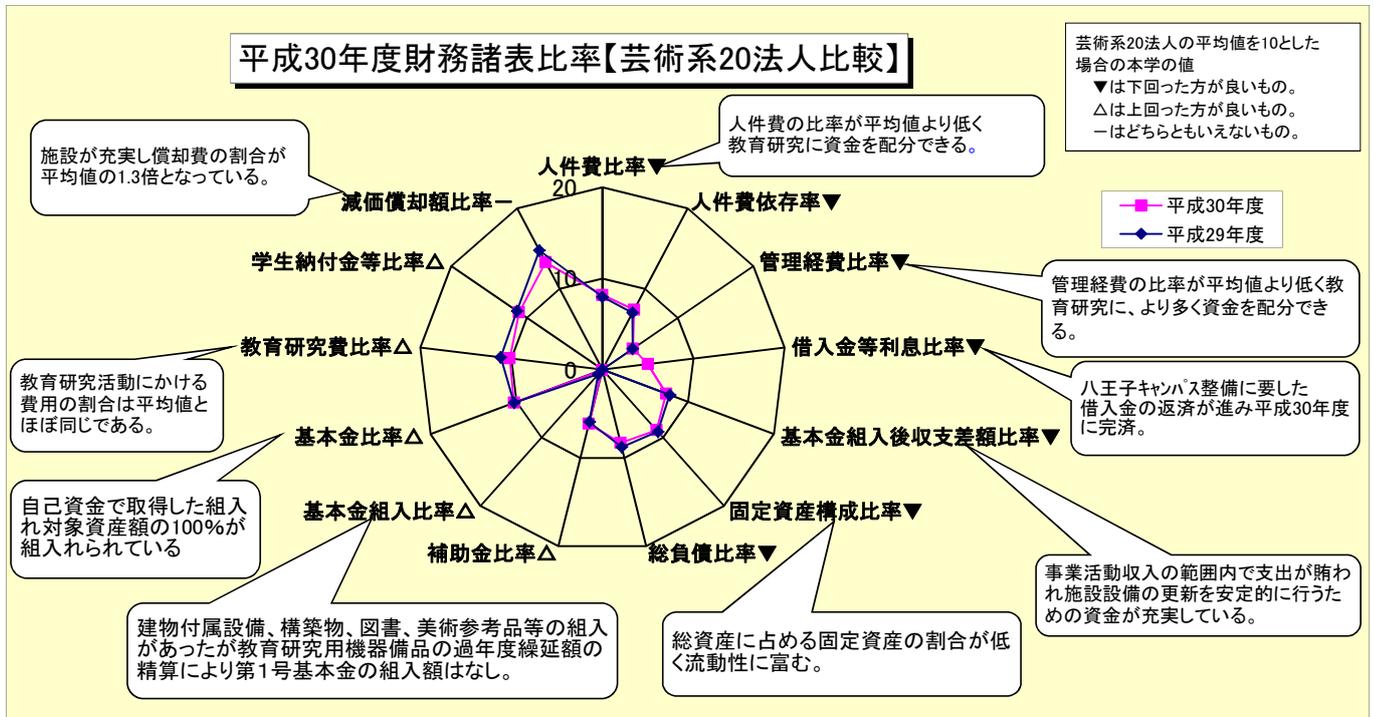
項目	算式	評価	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	芸術系平均値
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	46.7%	45.6%	47.7%	44.5%	45.7%	55.8%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生納付金}}$	▼	53.9%	53.3%	55.7%	51.2%	52.9%	71.2%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	4.6%	5.1%	4.4%	4.6%	4.7%	11.6%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	▼	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	▼	98.1%	106.1%	90.5%	86.0%	85.2%	114.4%
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	80.9%	81.1%	80.0%	78.8%	77.6%	87.1%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	9.7%	9.4%	9.6%	9.3%	8.9%	10.7%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	△	7.3%	7.8%	7.4%	6.7%	6.2%	10.1%
基本金組入比率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	△	9.9%	18.3%	0.9%	0.7%	0.1%	11.5%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	100.0%	100.0%	99.9%	100.0%	100.0%	97.2%
教育研究費経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	36.8%	36.5%	37.2%	36.6%	34.7%	34.1%
学生納付金等比率	$\frac{\text{学生納付金}}{\text{経常収入}}$	△	86.7%	86.2%	85.7%	86.9%	86.4%	78.3%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	-	18.6%	18.9%	18.8%	19.2%	17.7%	13.3%

*「経常収入」=教育活動収入計+教育活動外収入計 「経常支出」=教育活動支出計+教育活動外支出計 「運用資産」=現金預金+特定資産+有価証券
 *平成26年度以前の大学平均・芸術平均については、旧会計基準(消費収支計算書)のデータであるため新会計基準(事業活動資金収支計算書)に調整をして算出している。

【比率分析の見方】

- 人件費比率=経常収入に対する人件費割合を示す重要な比率で低い方が望ましい。
- 人件費依存率=学生納付金に対する人件費割合で一般的には低い方が望ましい。
- 管理経費比率=経常収入に対する管理費用の割合で低い方が良い。本学では特に節減に力を入れている。
- 借入金等利息比率=低い方が良い。本学は八王子キャンパス整備の借入金により比率が高かったが返済が進み平均値を下回った。
- 基本金組入後収支比率=「事業活動収入-基本金組入額」に対する事業活動支出の割合で低い方が良い。100%を超えると支出超過。
- 固定資産構成比率=総資産に占める固定資産の割合で低い方が良い。比率が特に高い場合は流動性に欠ける評価。
- 総負債比率=低い方が良い。総資産に対する他人資金の割合、50%を超えると負債総額が自己資金を上回る。
- 補助金比率=私立大学等経常費補助金の配分方法見直し、研究設備整備費等補助金などの積極的な取り組みにより増加。
- 基本金組入比率=高い方が良いとされる。平成30年度は教育研究用機器備品の繰延額精算により第1号基本金の組入れはなし。
- 基本金比率=基本金組入対象(教育研究用)資産の自己資金取得による割合で高い方が良い。
- 教育研究費経費比率=経常収入に対する教育研究活動費用の割合で高い方が良い。
- 学生納付金等比率=経常収入の中で最もウェイトが高く安定推移が良い。学費のみに依存しない体制作りが重要。
- 減価償却額比率=将来、資産の更新時に必要である。実質的には消費されずに留保される資金。

平成30年度財務諸表比率【芸術系20法人比較】



【まとめ】

平成30年度末における本学の財政状況は、学費収入が安定しており、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金も平成30年度に完済となる等、しっかりとした経営基盤を維持しています。この良好な状態は各財務比率でも示されています。本学は継続的な人件費支出の圧縮や管理経費支出の節減等により、新規の施設設備整備計画に当てるための資金ストックや毎年度の収支差額に不足はなく、今後も安定的な教育運営資金が十分確保されています。

財 産 目 録

平成31年 3月31日

I 資産総額		71,191,396,963 円
内 基本財産		35,036,597,498 円
運用財産		36,154,799,465 円
II 負債総額		6,368,451,678 円
III 正味財産		64,822,945,285 円

科 目	金 額	
資 産		
一 基本財産	(35,036,597,498 円)	
1 土地 (団地)	198,947.99 m ²	14,275,478,964 円
内 訳	(1) 上野毛キャンパス校地	16,118.66 m ² 10,600,000 円
	(2) 八王子校キャンパス校地	164,540.73 m ² 13,258,386,964 円
	(3) 美術館敷地 (校地)	1,603.00 m ² 920,000,000 円
	(4) 山中純林苑敷地	11,929.00 m ² 80,620,000 円
	(5) 奈良飛鳥寮敷地	1,469.60 m ² 5,172,000 円
	(6) 野尻湖敷地	3,287.00 m ² 700,000 円
2 建 物	110,808.97 m ²	14,654,194,261 円
内 訳	(1) 校 舎	96,309.83 m ² 11,837,941,902 円
	(2) 図 書 館	6,738.99 m ² 1,361,727,529 円
	(3) 講堂・体育館	3,895.29 m ² 426,758,845 円
	(4) 学生会館	2,073.99 m ² 320,006,543 円
	(5) そ の 他	1,790.87 m ² 707,759,442 円
3 構 築 物	352 件	2,106,614,274 円
4 教育研究用機器備品	11,859 点	1,094,105,494 円
5 管理用機器備品	440 点	34,770,152 円
6 図 書	214,076 冊	1,418,521,730 円
7 美術参考品	7,747 点	1,328,638,490 円
8 美術参考資料	365 種	58,191,357 円
9 車 両	9 台	5,085,773 円
10 建設仮勘定	1 件	320,000 円
11 ソフトウェア	5 件	58,403,781 円
12 電話加入権	38 台	2,273,222 円

※土地および建物の面積は、登記上の数値による。

科 目		金 額
二 運 用 財 産		(36,154,799,465 円)
1 現 金、預 金		15,557,281,449 円
2 第2号基本金引当特定資産		7,019,624,477 円
3 第3号基本金引当特定資産		372,612,839 円
4 減価償却引当特定資産		8,300,000,000 円
5 退職給与引当特定資産		1,949,124,287 円
6 多摩美術大学創立80周年記念奨学基金 引当特定資産		85,559,400 円
7 有 価 証 券		2,508,970,600 円
内 訳	(1)利付国債	809,162,600 円
	(2)財投機関債	499,808,000 円
	(3)銀行債	900,000,000 円
	(4)事業債	300,000,000 円
8 差入保証金		1,265,750 円
9 長期貸付金		209,385 円
10 未 収 入 金		302,885,984 円
11 前 払 金		56,847,494 円
12 立 替 金		417,800 円
資 産 総 額		71,191,396,963 円
負 債		
一 固 定 負 債		(1,949,124,287 円)
1 退職給与引当金		1,949,124,287 円
二 流 動 負 債		(4,419,327,391 円)
1 未 払 金		254,624,806 円
2 前 受 金		3,882,611,732 円
3 預 り 金		282,090,853 円
負 債 総 額		6,368,451,678 円
正味財産(資産総額－負債総額)		64,822,945,285 円